

○議長（武石善治） 7番の一般質問が終了しましたので、次に5番 萩野芳紀君の発言を許します。5番 萩野君。

（5番 萩野芳紀議員 一般質問席登壇）

○5番（萩野芳紀） それではお話をさせていただきます。今回の問題は、人口減少問題ということで、これは上小阿仁村だけではなく、我が国も、秋田県も全てが抱える国の最重要課題のひとつでもあります。人口減少というだけでは、なかなか取り上げることができないのですけれども、今回は、これに絞った話をさせていただきたいと思います。

午前中の伊藤議員のお話にもあるとおり全国に180くらいの村があつて、上小阿仁は約102番ぐらいとおっしゃっておいりました。この順列は、今の現状からは、何年経っても変わるものではありません。日本の人口は2010年、1億2,806万人から2060年には8,674万人へ減少するという報告が出ております。2012年は、2011年に比べて28万4,000人、0.22%も減少しています。2030年以降は、毎年100万人ずつ人口が減っていくとも言われています。

また、今、エネルギー安全保障の崩壊した日本の現状では、人口減少スピードはさらに加速されると、このようなデータが出ております。あと一つ、65歳以上の高齢者人口は3,719万3,000人で、総人口の約24.1%、これは2012年のデータでございます。このように過重な負担が現役世代と将来世代に押し付けられているのが、今の現状でございます。

まず、それではこの問題について話させていただきます。

まず、この問題には3つの課題がありまして、高齢者対策、結婚適齢期の婚活対策、そして少子化対策、この3つが全部解決されないことには、この問題は解決しないと思います。

今や我が国、県、村の人口減少問題は深刻です。私が帰村した平成17年は3,000人以上あった人口が、中田村長が当選した平成23年4月末、我が村の人口は2,818名、今年の5月末で2,678名、2年間で140名の減少です。今のままでは10年もしたら2,000人前後になるのではないかなど、このように思っております。

まず、高齢化率に目を向ければ、秋田県は2010年35%から2040年には44%と予測され全国トップ、以下、青森、高知と続いています。中でも上小阿仁村は約47%であり県内に置き換えただけでも30年先を行っています。もちろん全県で1番だということは、皆さんご存知のとおりだと思います。

私は、この4月から議会を代表し、地域包括支援センター運営協議会に携わっていて支援内容は理解していますが、村には、まだ利用しきれていないお年寄りがたくさんいます。特に友達の少ないお年寄り対策、このような方達に更なる参加をいかにして進めて行くか伺いたいと思います。そしてまた、厳寒期、

猛暑期は亡くなる方も増える傾向にあります。常駐医師の問題から、予防医学に対して、いかなる考えをもっているか教えて欲しい、このように思っております。これをまずひとつお願いしたいと思います。

そして、次に結婚適齢期の若者達の問題でございます。将来を見据えた時、結婚適齢期（20代～40代）、40代から、未婚であれば、私の同期生でも60歳で未婚者がいますけれども、このように男性独身者が多すぎます。役場の方にもかなりいるのではないかなと思っております。人数は定かではありませんが、100名、もしくは200名とも言われているのではないのでしょうか。村長、周辺にも数多く存在しておりませんか。

秋田県の婚姻率（人口千人に対する婚姻数）は、平成23年では3.8人となっております。平成12年以来12年連続全国最下位となっております。また平成23年の平均初婚年齢は、夫で30.3歳、妻が28.6歳となっており、年々上昇しているのが現状です。

この問題は、国、県の課題でもあり、23年4月に県、市町村、経済団体、社会福祉団体が共同で秋田結婚支援センターを秋田、大館、横手の3カ所に設立しております。村長は、この組織の存在を知っていましたでしょうか。この2年間で結婚報告の方々は約200名を超えていると、このように私は伺ってまいりました。村で結婚の推進のため会員加入の促進を図る考えはありますか。これについてもお答えください。

また、県では少子化の要因である未婚化、晩婚化対策のため出会いや結婚を希望する独身の方々をサポートする、出会い結婚支援活動を行うボランティアとして結婚サポータを募集しています。我が村には、現在は2名いるということです。他町村、特に大潟村のようなところは10名以上います。若い者の婚活というものに力をいれていると思います。このことに我が村はどのように取り組んでいくのかお聞かせください。県において真剣に取り組んでいる以上、個人のプライバシーの問題、いろいろ個々の問題もあるとも思いますが、これでは片付けられない問題だと思しますので、真剣に向かい合ってほしいと思います。

この結婚問題が進めば、次は少子化の問題も少しは解消できる可能性が出てきます。

行政報告にもあったように、今年度は保育園の園児が増加したという明るい話題もあります。これに関しても少子化対策はいろいろな形で実行されているものもありますが、将来を考えているかと聞かれば完璧ではありません。国、県などの少子化対策事業の交付金を活用した事業の計画や、全国各地で行われている少子化対策事業で見習わなければならない事業の調査とかも必要ではないかなと思います。

人口減少問題は、過疎地域のあらゆる問題の根幹をなすものであり、結婚により定住化を図り、生まれる人口を増やすことが一番大切な問題であり、課題であると考えます。村の少子化対策事業について、今後のとるべき方向性について、村長の考えを聞かせてください。

最後に、少子化対策とは何も子どもだけではなく、人口減少における青年男女、高齢者に係る全世代の問題であるということです。あくまでも上小阿仁村在住を前提にですが、結婚する男女が増えれば、10年～30年、それ以上の長い目でみてみれば、必ず我が村の将来に明るい希望を見出すことができると信じています。

以上で、人口減少についての質問を終わりますが、村長には10年と言わず30年、50年先の我が村を考えた村づくりを、今、お願いしたいと思っています。

50年後、今ある村は、あの中田村長の功績だと言われるような政策をお願いしたい。人口が100人や200人の村にならないうちにそのような対策を今から考えていっても遅くはないのではないのでしょうか。

今、話したとおりのことですが、我が村は高齢化されていると言っていますが、今最も高齢者の数が増えているのは、実はこういう小さな村ではないんです。大都市なんです。東京都とか、そういうところで高齢者が増えている。ただ高齢化率というのは、過疎の村で増えているだけであって、絶対数が増えているのが都市部なんです。小さな過疎化されている村は、もう大体高齢者はもうほとんどいなくなり尽くしたところまできていると言われているのが、今の人口減少の現状ですので、その辺のところは減少数と率ということは混同しないように考えていただきたいと思います。

あともう一つは、魁なんですけれども、これも特集で今日も一面に出ました。もう1部から、今日6部くらいになっていますけれども、毎週一面に出ていますので、人口減少の問題は特集で出ています。これをよく読んで、このようなこと少しでも理解していただきたいと思います。

以上、村長の答弁をお願いします。

○議長（武石善治） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 先ほど新聞を読んできました。この人口減少、これは我が村だけではなくて、先進諸国が必ずとおる道だと言われております。というのは、やはり生活が豊かになれば、子育ても変わってきますし、一番変わった私が思っているのは、産業革命があって、イギリスで蒸気が発明されて、人間が別の方向へ働かなければいけなくなってきた。今は、今度は働くのがコンピューター関係になっております。

まず、その人が何によって生活の糧をつかんで生きていくかと、この根本的

な問題が、やはりキチットしていかなければ、ただ、人間が増えればいいと言っても、今、増えれば食糧危機がおきるわけです。日本でも農業の自給率を見れば、人口が爆発的に増えたらどうなりますかと、まあ、そういうことはありえないわけですがけれども、後進国では、そういった問題も抱えている。人口が増えれば食料をどうするのかという問題も、私は抱えていると思っております。

秋田県も全国一の人口減少県になっておりますし、議員がおっしゃるように我が村は、その中でもトップランナーとして大変な問題を抱えている。議員からおっしゃられる前に、こういう人口動態等数字が出ますと、テレビカメラが村長室に入ってきて、村長はどう思っていますか、どうするんですか、こういうマイクが向けられてきました。この人口を増やすための、私は、特効薬は残念ながら今のところは持ち合わせてはおりません。こうすれば絶対増えるというふうなお話も多分できないと思います。

ただ、何もしないわけには行かないということだけは申し上げたいと思います。まず、ご質問にありましたことについてお答えしてまいりたいと思います。

ご承知のとおり地域包括支援センターは、地域住民の心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことにより、その保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的とする施設であります。

つまり、高齢者が住み慣れた地域で安心して過ごすことができるように、地域包括的、継続的な支援を行う地域包括ケアを実現するための中心的な役割をはたすことが地域包括支援センターに求められているため、村では介護予防啓発事業として講演会、研修会、地域巡回健康教室などを実施しております。また、地域介護予防活動の支援事業としてはボランティア活動事業を行っております。

ご指摘のとおり村にはまだまだ利用しきれていないお年寄りが多くおります。特に男性の参加者を増やしていくことが課題となっております。このため社会参加のきっかけを広報紙や回覧板だけではなくて、声かけなど直接的なきっかけが多いということですので、地域で積極的に声かけを行っていくことが、男性参加者の増加につながると考えられますので、今まで以上に各種事業をとおして声かけを行ってまいります。

また参加して楽しいと言われる事業、他者との交流を目的とした事業を地域包括支援センターと社会福祉協議会、また教育委員会と連携を図り、地域の人材を活用し、魅力ある事業を実施し、参加者の増加につなげ、さみしい思いで暮らすお年寄りを1人でも少なくできるような事業を推進してまいりたいと思っております。

それから、次に村の将来を考えた秋田結婚支援センターの活用策はというご

質問でございます。

秋田結婚支援センターの対応としては、希望者が入会をし、センターでお話をしながら交際がスタートするものと、出会いのイベント等の情報によって、イベントに参加をし、気に入った方と交際がスタートするものなどが行われております。また、センターでは、より結婚をする方々が多くなりますように、結婚サポータを登録し、ボランティアとして出会いや結婚に関するアドバイスやセンターの紹介、出会いイベント情報の提供、イベントの企画や開催などのお手伝いをさせていただいております。

村でも、昭和 62 年、若者センターが完成した当時に、結婚相談員制度を設置し、花嫁花婿カップルの誕生を願って 15 名の結婚相談員を委嘱してきた経緯もございます。議員の中に 2 名ほどその相談員を務められた方もおります。そうした若い人方のために、村も独自に行ってまいりましたけれども、現状は、なかなか成果があがらず、途中で制度そのものが挫折をいたしております。

現在、秋田結婚支援センターに、議員がおっしゃるように村の 2 名の方がサポータとして登録し、ボランティア活動をしていただいております。結婚についてはいろいろ難しいデリケートな部分でもあり、容易には進まないわけですが、村の将来を左右する重要な問題でもありますので、県のこの支援センターと連携しながら、独身の方々が良縁に恵まれますように務めて生きたいと思っております。議員の皆様にも、そういった点でお力をおかりできればなと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

そして、少子化対策包括交付金事業についてでございます。平成 24 年度は、入学祝い金の支給、子宝祝い金の支給、農業後継者育成技術習得事業、予防接種助成事業に活用させていただきました。

本年度については、こどもの国づくり支援事業の名称となり、内容も少し変わっております。保育園の遊具の整備、不妊治療等の助成、未入園児交流会、赤ちゃんとのふれあい体験学習事業、乳幼児や中学生等の予防接種の助成に活用することとしております。子どもが誕生しやすい環境の整備と健やかに成長していただけるような施策によって、村の少子化問題が少しでも緩和されることを願っております。

子どもの政策として、保護者の経済的負担を軽減するため、保育料については、各階層及び年齢区分によって違いますが、国の徴収区分より 2,000 円から 4 万 7,000 円まで、範囲が広いわけですが、保育料が減額となっております。

村の人口の自然増を願い、出産を奨励し、児童の健全育成を図るため第 1 子には 5 万円、第 2 子以降には 50 万円を子宝祝い金として、また、第 3 子以降については、出生の月から 6 歳の誕生日の属する月まで、月額 1 万円を贈呈して

おります。

乳幼児及び小中学校生に対しましては、心身の健康保持と安全を図るために医療費を助成しております。平成25年4月1日からは、対象を15歳まで拡大して支援しております。なお、入通院の医療費を15歳まで全額助成している町村は、全県で5町村となっております。

保護者が労働等により、日中、家におらない小学生に対し、放課後等において適切な遊びや生活の場を与え、その児童の健全育成を図るため放課後児童クラブを開設するとともに、未入園児とその保護者及び妊婦さんを対象に未入園児交流会を毎月1回実施しております。

また、小中学校の特色ある教育活動事業においては、村の予算措置をして全面的に支援をしており、この教育活動は、村を知り、村を深く見つめなおすことをとおして、将来を展望し、村の発展を支える人材育成を目指す取り組みでもあります。

奨学金対応については、高等学校月額2万円以内、短大、専修学校4万円以内、大学5万円以内とし、教育の機会均等を図り、心豊かな人づくりを目的として拡充しております。また、小学校の通学費助成については、小沢田、福館、杉花を除く集落を対象として通学バスの補助を行っております。

結婚する男女の増加につきましては、先ほど申し上げましたとおり、秋田結婚支援センター等の連携や村で実施している各種スポーツイベントなどに参加しやすい環境づくりに努め、出会いの場を増やしたいと考えております。若い世代だけの集まりではなく、いろいろな世代のかかわりによって補完され、交際から結婚が成立して、子どもが生まれるような住みよい村づくりを目指して努力してまいりますので、ご協力をよろしくお願いを申し上げます。

以上でございます。

○議長（武石善治） 5番 萩野君。

○5番（萩野芳紀） ありがとうございます。それで、先ほどおっしゃった結婚サポータの話なんですけれども、2人いますけれども、この2人とも男性なんです。このような方は、むしろ男性より女性の方が、本来であれば進行がうまくいくというようなことが昔からの慣例でありますので、ぜひとも、この部分は女性の方を何とか1人、2人探していただいて、起用していただけるようお願いしたいと思います。

それとあと、このお願いを最後に、もう終らせていただきますが、今、この人口減少についてだけ、ひとつだけ語らせてください。今、先進国では、我が国の場合、先進国と言われてはいますが、先進国の中ではどこの国でも経験したことのない人口減少社会が到来しているということです。人口が減るといことは、高齢者のための年金や医療などの社会保障が減ります。現役と将

来世代の負担が軽くなります。これはいいことかも知れませんが、しかし、問題はそこにいたるまで、経済破綻がおこらないかどうかと、このような問題も考えながら、この辺のところに取り組んでいただきたいと思いますのでよろしくをお願いします。

以上です。私の質問を終わります。

○議長（武石善治） 答弁もらいますか。

（「それでは、女性の方、募集という意味の取り組みについてご答弁いただければと思います。」）

○議長（武石善治） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 募集した時点において、女性の方がおらなかったというふうなことでございまして、こちらから無理にお願いして、果たしてそれがそういう斡旋といいますか、サポートになれるのか、やはり、これは自分から進んで私はこういう趣旨に賛同して協力をしたいというのが本来の形ではないのかなと思いますので、お願いすることはやぶさかではないのですけれども、そうしますと、なぜ、あの人がなったのかと、必ずこういう声が聞えてくるわけです。ですから、できるだけそういう声が出ないように自分から、自らが手を挙げてやるのが一番よいのではないのかなと、村長の立場として、そういう考えてございます。

○議長（武石善治） 5番 萩野君。

○5番（萩野芳紀） それは村長の立場というのであれば、それはそれで結構ですが、ただ、こういう紙を出して、たとえば募集しますと言ってもなかなか集まらないのが現状ですので、これはあくまでもボランティアということになっていますので、無理やりということは、村長の答弁のとおりもっともだと思います。その辺のところは無理やりということはないのですが、そういう方が応募してくださる土壌、下地を作るような努力も願えればと思いますので、その辺のところは、ぜひともご理解した上でよろしくお願いいいたします。

あと答弁はいりませんので、私の質問は、これで終わらせていただきます。ありがとうございました。